

日本語教育学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
日本語教育論特論Ⅱ	学習者と社会	2	島崎 薫	2学期	火	3	1
日本語教育論特論Ⅲ	日本語教育方法論概説	2	衣川 隆生	集中(1学期)			2
日本語教育論特論Ⅳ	コミュニケーションのための日本語教育文法	2	野田 尚史	集中(2学期)			4
日本語教育論講読	第二言語習得研究	2	小河原 義朗	1学期	月	2	5
日本語教育論研究演習Ⅰ	コンピュータ利用と日本語教育	2	才田 いずみ	1学期	火	4	6
日本語教育論研究演習Ⅱ	日本語コースカリキュラムの評価	2	小河原 義朗	2学期	火	4	8
日本語教育論実習Ⅰ	日本語コースの準備と運営	2	才田 いずみ	1学期	月	3、4	9
日本語教育論実習Ⅱ	日本語コースの評価と改善	2	才田 いずみ	2学期	月	3、4	10
比較現代日本論講読Ⅰ	現代日本論論文講読	2	田中 重人	1学期	金	4	11
比較現代日本論研究演習Ⅰ	統計分析の基礎	2	田中 重人	1学期	木	2	12
比較現代日本論研究演習Ⅱ	質問紙調査の基礎	2	田中 重人	1学期	水	2	13
比較現代日本論研究演習Ⅱ	調査的面接の基礎	2	田中 重人	2学期	水	2	14
比較現代日本論研究演習Ⅲ	実践的統計分析法	2	田中 重人	2学期	木	2	15
課題研究 (日本語教育学)		4	才田 いずみ 田中 重人 小河原 義朗 島崎 薫	通年	水	5	

科目名：日本語教育論特論Ⅱ／ Applied Japanese Linguistics(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：島崎 薫（兼務教員）

講義コード：LM22303， 科目ナンバリング：LLI-LIN631J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

学習者と社会

2. Course Title (授業題目)：

Japanese language learners and society

3. 授業の目的と概要：

日本語学習者が日本語使用者としてどのように社会の中で活動しているのかを知り、実践研究や報告を参照しながら、日本語教師はどのように日本語学習者の日本語使用者としての社会での活動や学びを支援できるのかを考えます。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本語学習者が日本語使用者としてどのように教室の外で活動しているのかを知る
- (2) 日本語学習者と社会に関する論文や実践報告などをクリティカルに読むことができる
- (3) 学習者の日本語使用者としての社会での学びや活動を支援するプログラムデザインができるようになる
- (4) グループで協力しながらプログラムデザインを行うことができる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

オリエンテーション・自己紹介

学習者と社会をつなぐ実践に関する文献購読とそれに基づいたディスカッション

グループで学習者と社会をつなぐプログラムや活動をデザインするグループワーク

中間発表、最終発表

6. 成績評価方法：

参加態度 40%、プログラムデザイン（グループプロジェクト） 30%、最終レポート 30%

7. 教科書および参考書：

授業内で適宜配布予定

8. 授業時間外学習：

授業時間外でグループ活動をする必要があります。

9. その他：

科目名：日本語教育論特論Ⅲ／ Applied Japanese Linguistics(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：前期集中

学期：集中（1学期）、単位数：2

担当教員：衣川 隆生（非常勤講師）

講義コード：LM98814、科目ナンバリング：LLI-LIN632J、使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本語教育方法論概説

2. Course Title（授業題目）：

Japanese Language Education Methodology

3. 授業の目的と概要：

- (1) 言語教育のパラダイムシフトの要因となった社会的背景、理論的背景の基本的な概念を理解し説明できるようになること、
- (2) 構成主義的教育観に基づいた学習環境をデザインし検証する基礎的な力を身につけることを目的として、講義においては(1)課題（資料講読・資料分析-事前課題を含む）、(2)課題の解釈の共有と発展、(3)自己評価を含む振り返りを行う。

4. 学習の到達目標：

1. 本講義で取り扱う以下の主要な概念について自己の学習経験、教育経験に照らし合わせて解釈を行い、説明できるようになる。
 - ・客観主義・実証主義
 - ・構成主義
 - ・能力観・学習観・教育観
 - ・学習ストラテジー
 - ・自律学習能力
 - ・メタ認知能力・メタ認知知識・メタ認知活動
2. 自律学習能力育成を目指した教育事例を分析、検討し、理論に基づいた教室活動、学習環境デザインを行うことができる。
3. 自分自身の概念理解、学習環境デザインについて振り返り、自己評価し、持続的学習の目標を設定することができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション・教室活動の体験
2. 教室活動の体験・振り返り
3. 言語教育のパラダイムシフト(1)
4. 言語教育のパラダイムシフト(2)
5. 構成主義(1)
6. 構成主義(2)
7. 構成主義・振り返り
8. 学習ストラテジー(1)
9. 学習ストラテジー(2)
10. 自律学習能力（メタ認知能力）(1)
11. 自律学習能力（メタ認知能力）(2)
12. 学習ストラテジー・自律学習能力・振り返り
13. 自律学習能力（メタ認知能力）を育てる教室活動・学習環境(1)
14. 自律学習能力（メタ認知能力）を育てる教室活動・学習環境(2)
15. 自律学習能力（メタ認知能力）を育てる教室活動・学習環境・振り返り

6. 成績評価方法：

課題(30%)、振り返り(40%)、自己評価(15%)、授業参加度（出席率と協働作業の貢献度により評価）(15%)

7. 教科書および参考書：

講義内で適宜指定、または配布する。

参考資料

佐々木倫子(2006)「パラダイムシフト再考」『日本語教育の新たな文脈-学習環境、接触場面、コミュニケーションの多様性』アルク、p. 259-283.

義永美央子(2008)「第二言語話者の「能力」-能力観の変遷と第二言語習得研究のパラダイム・シフト-」『CHAT Technical Reports』, No. 7, pp. 1-15., 関西大学人間活動理論研究センター
<http://www.chat.kansai-u.ac.jp/publications/tr/v7_9.pdf>

寅丸 真澄(2015)「日本語教育実践における教室観の歴史的変遷と課題：実践の学び・相互行為・教師の役割に着目して」『早稲田日本語教育学』17, pp. 41-63.

<https://waseda.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=25432&item_no=1&page_id=13&block_id=21>

山下隆史(2005)「学習を見直す」西口光一（編著）『文化と歴史の中の学習と学習者-日本語教育における社会文化的パースペクティブ』凡人社、p. 6-29.

久保田賢一(2000)『構成主義パラダイムと学習環境デザイン』関西大学出版

久保田 賢一(2003)「構成主義が投げかける新しい教育」『コンピュータ&エデュケーション』Vol. 15, No. 12, pp. 12-18.

<https://www.jstage.jst.go.jp/article/konpyutariyoukyouiku/15/0/15_12/_pdf>

細川英雄(2008)「教育環境空間の設計・設定をめざして-実践を拓き、研究を紡ぐ教師へ-」細川英雄編著『ことばの教育を実践する・探求する-活動型日本語教育の広がり』凡人社, p. 4-16.

三宮真智子(編著)(2008)『メタ認知-学習力を支える高次認知機能』北大路書房

小嶋英夫・尾関直子・廣森友人(編)(2010)『英語教育体系第6巻 成長する英語学習者-学習者要因と自律学習-』大修館書店

齊藤聖菜(2016)「口頭発表の授業実践で見られた対話と学習者の変化」『リテラシー』18, pp. 18-32.

<<http://literacies.9640.jp/dat/litera18-18.pdf>>

齊藤聖菜(2017)「対話型の口頭発表の授業実践における学習者の「学び」」『言語文化教育研究』第14巻, pp. 85-103.

<http://alce.jp/journal/dat/14_85.pdf>

8. 授業時間外学習：

講義内で指示する課題を行うこと。

9. その他：

資料購読と事前課題、授業では事前課題に基づく話し合い、振り返りを中心に進める。グループ・ワークに積極的に参加することを期待する。

科目名：日本語教育論特論IV／ Applied Japanese Linguistics(Advanced Lecture)IV

曜日・講時：後期集中

学期：集中（2学期）、単位数：2

担当教員：野田 尚史（非常勤講師）

講義コード：LM98815、科目ナンバリング：LLI-LIN633J、使用言語：日本語

1. 授業題目：

コミュニケーションのための日本語教育文法

2. Course Title（授業題目）：

Pedagogical Japanese grammar for communication

3. 授業の目的と概要：

日本語非母語話者のための日本語教材で文法がどのように扱われているかを分析するとともに、コミュニケーションを重視した日本語教材では文法をどのように扱うのがよいかを検討する。

具体的には、次のような観点から分析を行う。

- (1) 現行の日本語教材での文法の扱い
- (2) 日本語教材の文法と日本語非母語話者が必要な文法の違い
- (3) コミュニケーションを重視した日本語教材に必要な文法
- (4) コミュニケーションを重視した日本語教材の具体例

4. 学習の到達目標：

- (1) さまざまな日本語教材での文法の扱いを分析できるようになる。
- (2) 日本語教材の文法と日本語非母語話者が必要な文法の違いを分析できるようになる。
- (3) コミュニケーションを重視した日本語教材に必要な文法を考えられるようになる。
- (4) コミュニケーションを重視した日本語教材の具体例を考えられるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション（コミュニケーションのための日本語教育文法とは）

【日本語教科書で取り上げられる文法】

2. 初級教科書で取り上げられる文法項目
3. 初級教科書で取り上げられる文法項目の順序
4. 中級教科書で取り上げられる文法項目

【日本語教科書の文法と日本語学習者が必要な文法の違い】

5. 日本語教科書の文法と現実の日本語の違い
6. 日本語教科書の文法とコミュニケーションに必要なことの違い
7. 日本語教科書の文法と習得状況の違い

【コミュニケーションのための日本語教育文法に必要な視点】

8. 日本語教育の「常識」は絶対的なものではない
9. コミュニケーションに必要な日本語とは？
10. 一人ひとりの学習目的や母語を考える

【コミュニケーションのための日本語教育文法の具体例】

11. 「聞く」コミュニケーションのための教育
12. 「話す」コミュニケーションのための教育
13. 「読む」コミュニケーションのための教育
14. 「書く」コミュニケーションのための教育

15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート70%，授業参加度（調査課題の発表を含む）30%

7. 教科書および参考書：

野田尚史（編）『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版，2005年。
野田尚史（編）『日本語教育のためのコミュニケーション研究』くろしお出版，2012年。
新屋映子・姫野伴子・守屋三千代『日本語教科書の落とし穴』アルク，1999年。
森篤嗣・庵功雄（編）『日本語教育文法のための多様なアプローチ』ひつじ書房，2011年。
山内博之『プロフィジェンシーから見た日本語教育文法』ひつじ書房，2009年。

8. 授業時間外学習：

日本語教科書についての調査を中心に調査課題を出すので、授業時間外に各自が調査をしていくことが必要。

9. その他：

ウェブサイト：<http://www.nodahisashi.org>

メールアドレス：noda.hisashi@ninjal.ac.jp

科目名：日本語教育論講読／ Applied Japanese Linguistics(Reading)

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

学期：1学期， 単位数：2

担当教員：小河原 義朗（准教授）

講義コード：LM11204， 科目ナンバリング：LLI-LIN634J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

第二言語習得研究

2. Course Title (授業題目)：

Second Language Acquisition Research

3. 授業の目的と概要：

日本語を教えるために必要な第二言語習得の基本的な考え方を理解し、授業実践と結び付けて考えることを目指す。授業は、第二言語習得に関して提示された課題について次のような活動を通して進める。(1)資料をもとに課題に対する考えをまとめる。(2)担当資料を理解し、課題を解く。(3)担当資料を紹介し合い、協働して課題に対する解作りに取り組む。(4)課題に対する解を発表し合い、全体で議論する。(5)課題に対する解について改めてまとめる。

4. 学習の到達目標：

- (1)第二言語習得の基本的な考え方を理解し、説明できる。
- (2)第二言語習得研究の知見を日本語教育の具体的な授業実践と結び付けて考えることができる。
- (3)第二言語習得研究の方法論を自らの研究に活用することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 第二言語習得研究
3. 中間言語
4. 母語の影響
5. 習得順序
6. インプットとアウトプット
7. 教室における学習
8. 言語習得要因
9. バイリンガル教育
10. 第二言語習得研究と日本語教育
11. 第二言語習得研究の方法
12. 文献講読
13. 文献講読
14. 文献講読
15. 文献講読とまとめ

6. 成績評価方法：

レポート 30%・課題 40%・授業参加度 30%

7. 教科書および参考書：

教科書：大関浩美(2010)『日本語を教えるための第二言語習得論入門』くろしお出版

8. 授業時間外学習：

提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

9. その他：

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育論研究演習 I / Applied Japanese Linguistics (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：才田 いずみ（教授）

講義コード：LM12406， 科目ナンバリング：LLI-LIN635J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

コンピュータ利用と日本語教育

2. Course Title (授業題目)：

ICT and Japanese Language Learning

3. 授業の目的と概要：

テクノロジーの進歩により、我々の日常生活にもネットワーク通信が盛んに組み込まれ、教育・学習場面においても ICT (Information Communication Technology: 情報通信技術) の利用が当たり前のことになってきている。こうした教育学習環境で行われる日本語教育・日本語学習はどのようなものであり得るだろうか。

日本語授業にパソコンやモバイル機器を持ち込み、情報通信テクノロジーを生かした授業をデザインするとき、どのような学習活動が可能になるかを多角的に考える。

同時に、ICT のもたらす効果が「見せかけの効果」になっていないか、活動デザインを評価する視点の獲得も目指す。

4. 学習の到達目標：

1. ICT を日本語授業に活用するとき、どのような利用法があるのかを知る。
2. 授業への ICT 利用の利点と欠点を意識できるようになる。
3. 授業の目的や学習者、通信環境などを考慮して、効果的に ICT を利用した授業活動がデザインできるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は、個人活動とグループ活動を組み合わせて実施する。

1. オリエンテーション

受講者各自の教育・学習での ICT 利用体験について話し合う。

2. 日本語授業における ICT 利用の調査 1

受講者各自が日本語授業における ICT 利用の事例を調査・収集する

3. 日本語授業における ICT 利用の調査 2

小グループで収集した事例を持ち寄り、分類・分析する。

グループの分類基準から導かれる項目に該当事例のない項目があれば、

そこに当てはまる利用法を考え、次回までに類似の事例を探索してくる。

4. 各グループの調査結果の発表

全体を通して分類方法のバリエーションを把握する。

事例の多寡の示すところを考える。

5. 日本語教育における ICT 利用：理論と実際 1

6. 日本語教育における ICT 利用：理論と実際 2

7. 目的別の ICT 利用 1

インプットかアウトプットか、技能統合的な活動をするのか、個人活動か協働活動かなど、受講者と話し合った上で学習目的を絞り、グループあるいは個人で、目的に合致した授業での ICT 利用をデザインする。

グループで実施する場合には、グループの構成員全員が同一学習者群に対して目的の異なる授業を分担して考える。

グループ内での発表・検討を行った上で、クラス全体に対して発表する。

(以下、10 回目まで同様の活動が続く)

8. 目的別の ICT 利用 2

9. 目的別の ICT 利用 3

10. 目的別の ICT 利用 4

11. アクティブ・ラーニングと ICT

12. 自律学習と遠隔学習

13. ICT 利用とクラスコントロール

14. ICT 利用の評価とオルタナティブ

15. まとめ

6. 成績評価方法：

期末課題 40%・授業の個人課題 30%・グループ課題への貢献 20%・出席と参加度 10%

7. 教科書および参考書：

参考書：国際文化フォーラム (2013) 『外国語学習のめやす』

教育工学会編 『教育工学事典』

鈴木克明 2002. 『教材設計マニュアル：独学を支援するために』北大路書房。

鄭仁星・久保田賢一 (編著) 2006. 『遠隔教育と e-ラーニング』北大路書房。

三宅なほみ 1997. 『インターネットの子どもたち』岩波書店。ほか

8. 授業時間外学習：

授業では、グループでの方向性の話し合いや、各自のデザインについての検討は行うが、課された個人課題やグループ課題については、授業時間外に必要な先行研究の検討や調査、実現可能性のチェックなどを行って、課題に応える案を作成すること。また、授業内での発表も予定されるので、わかりやすいプレゼンテーションの準備も行うこと。

9. その他：

特段の理由なく3回欠席した場合には単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育論研究演習Ⅱ／ Applied Japanese Linguistics(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：小河原 義朗（准教授）

講義コード：LM22405， 科目ナンバリング：LLI-LIN636J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本語コースカリキュラムの評価

2. Course Title (授業題目)：

Japanese Language Course evaluation

3. 授業の目的と概要：

日本語コースカリキュラムの評価は、誰が何のために行うのか、コースカリキュラムの中でどのような位置づけにあるのか、何を評価の対象にするのか、どのような種類があるのかについて、学習活動の体験、テスト・ルーブリックの作成、スタンダードの分析等を通じて基本的なことを確認する。そして、コースカリキュラムにおいて、学習目標が評価を規定し、評価が学習活動を規定すること、多面的な評価の重要性を認識することを目指す。

4. 学習の到達目標：

- (1) 言語教育における評価の現況について、基本的な考え方を理解し、説明できる。
- (2) 様々な評価の方法について理解し、説明できる。
- (3) 日本語コースカリキュラムのバックワード・デザインができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. コースデザイン
3. コースカリキュラムの評価(1)
4. パフォーマンス評価
5. コースカリキュラムの評価(2)
6. ルーブリック評価(1)
7. ルーブリック評価(2)
8. コースカリキュラムの評価(3)
9. 伝統的評価と代替的評価
10. テストによる評価(1)
11. テストによる評価(2)
12. スタンダードの分析(1)
13. スタンダードの分析(2)
14. ポートフォリオ評価
15. バックワード・デザインとまとめ

6. 成績評価方法：

レポート 30%・課題 40%・授業参加度 30%

7. 教科書および参考書：

授業内で指定、または配布する。

8. 授業時間外学習：

毎回提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

9. その他：

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育論実習 I / Methodologies in Japanese Language Teaching(Practice)I

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時. 前期 月曜日 4 講時

学期：1 学期, 単位数：2

担当教員：才田 いずみ (教授)

講義コード：LM11304, 科目ナンバリング：LLI-LIN637J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本語コースの準備と運営

2. Course Title (授業題目)：

Basics for coordinating Japanese language courses

3. 授業の目的と概要：

日本語のコースデザインやコースの実施運営に必要な内容を学び、身につける。

1. コースデザインや授業デザイン, 教師教育関連の論文を読みながら, 夏季休暇中に実施予定の日本語コースに対するレディネスを高める。
2. 夏季集中コースのためのコースデザインを行う。
3. コース運営に必要な種々の準備作業を行う。

4. 学習の到達目標：

- (1) コースデザインやコース運営の基礎を学び, レディネスを高める。
- (2) 実際に日本語夏季集中コースのコースデザインを行う。
- (3) 日本語夏季集中コースのために必要な準備作業を行い, 短期コースを運営する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
夏季日本語コース関連スケジュールの検討
2. コースデザインの基本
夏季日本語コースのコンセプト案の作成
3. コンセプト案の検討とコースデザインとシラバスデザイン案の作成
学習活動デザインの基本 1
4. 事前調査と学習者募集の検討
学習活動デザインの基本 2
マイクロティーチング 1
5. ニーズ調査・レディネス調査の調査票作成
学習活動デザインの基本 3
マイクロティーチング 2
6. ニーズ調査・レディネス調査の調査票の改訂
学習者の日本語力の測定と評価
7. プレイスメントテスト案の作成・検討
事前調査・オリエンテーション計画の作成
8. 事前インタビュー調査またはオリエンテーションの実施
マイクロティーチング 3
9. 学習者情報の分析とコースデザインの改訂
教材・リソースの検討 1
10. 教材・リソースの検討 2
11. 改訂版コースデザインに基づいた授業デザインと模擬授業 1
12. 改訂版コースデザインに基づいた授業デザインと模擬授業 2
13. 模擬授業 3
コース評価の方法
14. 日本語夏季集中コースの詳細の決定
15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート 50%, 平常点 (クラス参加度・授業課題・ジャーナル) 50%

7. 教科書および参考書：

適宜教員が指示する。

8. 授業時間外学習：

毎回の授業で, 次回までの課題が課せられる。本授業の課題として運営する夏季日本語コースに関する作業のほとんどは, 授業時間外に行う必要があると想定しておくこと。

9. その他：

履修要件：

夏季休暇中の教壇実習に参加できること (日本語夏季集中コースは 8 月の数週間を使って実施予定)。

2 学期の日本語教育論実習 II が履修できること。

教壇実習の報告書の作成に参加できること。

科目名：日本語教育論実習Ⅱ／ Methodologies in Japanese Language Teaching(Practice)II

曜日・講時：後期 月曜日 3講時, 後期 月曜日 4講時

学期：2学期, 単位数：2

担当教員：才田 いずみ (教授)

講義コード：LM21304, 科目ナンバリング：LLI-LIN638J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

日本語コースの評価と改善

2. Course Title (授業題目)：

Evaluating a Japanese Language Course for further Development

3. 授業の目的と概要：

夏季休暇中に運営した集中日本語コースを材料に、授業活動や授業運営、コース運営について分析・評価を行う。その活動を通して、日本語コースのデザインや運営をめぐる気づきを拡大し、改善への新たな視点を獲得する。

具体的には以下の項目を扱う。

- 1) 授業データを利用して、種々の分析法を学びながら、授業を記述・分析することの意義について検討する。
- 2) 授業ビデオを詳細に検討することによって、授業・およびコースデザインの評価を行い、改善策を考える。
- 3) コース全体を振り返り、その問題点を検討し、改善策を考える。

4. 学習の到達目標：

- (1) 授業の記述・分析と評価ができる。
- (2) コース・授業の改善・発展について有効なアイデアを出すことができる。
- (3) 日本語コースのデザインや運営について、複数の視点を持ち、よりの確な判断が下せるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODクシヨン
2. 夏季集中コースについての振り返り
3. 授業ビデオの検討：問題点の抽出 1
4. 授業ビデオの検討：問題点の抽出 2
5. 授業ビデオの検討：問題点の抽出 3
6. 改善策の検討
7. 書き起こしデータから見えることを考える
8. 授業分析の枠組み 1
9. 授業分析の枠組み 2
10. 分析枠組みを用いた結果の検討 1
11. 分析枠組みを用いた結果の検討 2
12. 分析枠組みを用いた結果の検討 3
13. 分析枠組みを用いた結果の検討 4
14. 教師としての自分の傾向について考える
15. まとめ

6. 成績評価方法：

レポート 50%, 平常点 (クラス参加度, 授業課題, ジャーナル) 40%, 実習報告書への貢献 10%

7. 教科書および参考書：

参考書：

Fanselow, John (1987) Breaking Rules. Longman.

国際文化フォーラム (2013) 『外国語学習のめやす』

ほか、教員が適宜指示する。

8. 授業時間外学習：

授業データに関する分析作業は、ほとんど授業時間外に実施する課題となる。

毎回の授業を振り返りジャーナルを書くことを課すが、これも時間外の学習課題である。

9. その他：

履修要件：日本語教育論実習Ⅰを履修済みであること。

3回以上欠席した場合には、特別な理由のない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：比較現代日本論講読 I / Comparative study on Contemporary Japan(Reading)I

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：田中 重人（准教授）

講義コード：LM15403， 科目ナンバリング：LLI-LIN641J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

現代日本論論文講読

2. Course Title (授業題目)：

Reading Seminar in Contemporary Japanese Studies

3. 授業の目的と概要：

研究は、学術雑誌の原著論文を探して読むことから始まります。この授業では、文献データベースを使って論文を探し、その内容を読み、プレゼンテーションと質疑応答を通して理解していくことを目指します。とりあげる論文は、現代日本文化に関するもので、日本語または英語のもの、という条件のなかで、受講者の興味にしたがって選定します。1 論文を、(a) 鍵概念の抽出 (scanning)、(b) 構造の抽出 (skimming)、(c) 図表の解説、(d) ロジックの抽出、の 4 人で分担して、それぞれの担当者がコンピュータを使用したプレゼンテーションをおこないます。

4. 学習の到達目標：

(1) 論文の探しかたと読みかたを理解する；(2) プレゼンテーションと質疑応答の技術を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- イントロダクション
- 論文をさがす (1)：日本語文献
- 論文をさがす (2)：英語文献
- 論文の読みかた (1)：鍵概念と構造
- 論文の読みかた (2)：図表とロジック
- プレゼンテーションの準備
- 発表と質疑
- 論文ごとに担当者を決めてプレゼンテーション (各自 2 回以上)
- 録画視聴と振り返り
- 全体のまとめと講評

6. 成績評価方法：

授業中の課題と宿題 (30%)、担当部分のプレゼンテーション(40%)、プレゼンテーションに対する質疑応答 (30%)を合計して評価する。

7. 教科書および参考書：

【教科書】東北大学附属図書館『情報探索の基礎知識』基本編／人文社会科学編。

【参考書】諏訪邦夫 (1995)『発表の技法』講談社。

8. 授業時間外学習：

毎回の授業での課題のほか、取り上げる論文の読解、プレゼンテーションの資料作成と準備、プレゼンテーション録画を見ての反省をおこなうこと

9. その他：

授業計画は、受講者の人数によって変更する可能性がある。授業資料は <http://tsigeto.info/c.html> に掲載予定。

科目名：比較現代日本論研究演習 I / Comparative study on Contemporary Japan (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：田中 重人（准教授）

講義コード：LM14208， 科目ナンバリング：LLI-LIN643J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

統計分析の基礎

2. Course Title (授業題目)：

Basics of Statistical Analysis

3. 授業の目的と概要：

意識調査・テスト・実験などのデータはどのように分析すればいいでしょうか。この授業では、小規模の標本調査を念頭において、統計分析の基礎的な手法を学びます。これまで統計的な分析をおこなったことのない人を対象に、初歩から講義します。同時に、コンピュータを実際に使って、データ分析の実習をおこないます。

4. 学習の到達目標：

(1) 統計分析の基礎を理解する；(2) データ分析ができるようになる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- イントロダクション
- SPSS 入門
- 統計分析の基礎
- 度数分布表とグラフの利用
- クロス表分析の基礎
- 連関係数
- クロス表の解釈
- ここまでの復習と進度確認課題
- 平均と分散
- 平均値の比較
- 分散分析
- 推測統計の基礎と区間推定
- 統計的検定
- さまざまな検定手法
- 全体のまとめとレポート内容についての相談

6. 成績評価方法：

授業中の課題と宿題（70%）、期末レポート（30%）を合計して評価する。

7. 教科書および参考書：

【教科書】吉田寿夫（1998）『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房。

8. 授業時間外学習：

毎回の課題とレポート作成の準備

9. その他：

実習室で使用できるコンピュータ台数が限られているため、受講人数を制限することがある。授業資料は <http://tsigeto.info/c.html> に掲載予定。

科目名：比較現代日本論研究演習Ⅱ／ Comparative study on Contemporary Japan(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

学期：1学期， 単位数：2

担当教員：田中 重人（准教授）

講義コード：LM13207， 科目ナンバリング：LLI-LIN644J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

質問紙調査の基礎

2. Course Title (授業題目)：

Basics of Questionnaire Survey

3. 授業の目的と概要：

質問紙を使った調査の方法についての講義と実習をおこないます。講義では、質問紙調査の基本的な概念と方法、仮説設定からレポート作成までの一連のプロセスについて解説します。実習では、受講者が各自の選んだ研究テーマに沿って文献収集をおこない、テーマへの理論的アプローチを検討し、質問紙を作成し、調査を実施し、その結果をレポートとして提出します。

4. 学習の到達目標：

(1) 質問紙調査の長所と短所を把握する；(2) 質問紙調査の実際のプロセスについて、体験を通して習得する

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- イントロダクション
- 調査課題の設定
- 既存調査と先行研究の探索
- 調査対象者と調査方法
- 調査の企画
- 質問文と回答欄
- 調査実施について面談
- 調査票の構成
- 調査票の検討
- エディティングとコーディング
- データの入力と点検
- 報告書の執筆
- 調査結果発表会
- 全体のまとめとレポート執筆についての相談

6. 成績評価方法：

授業中の課題（40%）、学期末に提出する質問紙（30%）、調査結果に基づくレポート（30%）を合計して評価する。

7. 教科書および参考書：

【教科書】轟亮・杉野勇（編）(2017)『入門・社会調査法 [第3版]』法律文化社。

8. 授業時間外学習：

毎回の課題と調査の企画・実施およびレポート作成

9. その他：

1 学期開講の比較現代日本論研究演習Ⅰ「統計分析の基礎」をあわせて履修することが望ましい。授業資料は <http://tsigeto.info/c.html> に掲載予定。

科目名：比較現代日本論研究演習Ⅱ／ Comparative study on Contemporary Japan(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：田中 重人（准教授）

講義コード：LM23207， 科目ナンバリング：LLI-LIN644J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

調査的面接の基礎

2. Course Title (授業題目)：

Basics of In-depth Interview

3. 授業の目的と概要：

面接法による質的調査の方法についての講義と実習をおこないます。講義では、面接調査の基本的な方法とプロセスについて解説します。実習では、受講者が各自の選んだ研究テーマに沿って文献収集をおこない、面接調査を実施し、その結果をレポートとして提出します。

4. 学習の到達目標：

- (1) 面接調査の長所と短所を把握する；
- (2) 面接調査の実際のプロセスについて、体験を通して習得する

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- イントロダクション
- 研究のイメージをつかむ
- 調査的面接の方法
- シナリオの作成
- 面接実習
- 面接実習結果について検討
- 対象者の選びかた
- 調査計画について討論
- インタビュー実施から書き起こしまで
- 分析
- 報告書
- 発表会
- 調査的面接の倫理
- 全体のまとめとレポート執筆に向けての討論

6. 成績評価方法：

授業中の課題（50%）、調査結果に基づく口頭発表とレポート（50%）を合計して評価する。

7. 教科書および参考書：

【教科書】松浦均・西口利文（2008）『観察法・調査的面接法の進め方』ナカニシヤ出版。

8. 授業時間外学習：

各回の課題と各自の調査企画、実施およびレポート作成

9. その他：

1学期開講の比較現代日本論研究演習Ⅱ「質問紙調査の基礎」も履修することが望ましい。
授業資料は <http://tsigeto.info/c.html> に掲載予定。

科目名：比較現代日本論研究演習Ⅲ／ Comparative study on Contemporary Japan(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：田中 重人（准教授）

講義コード：LM24207， 科目ナンバリング：LLI-LIN645J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：

実践的統計分析法

2. Course Title (授業題目)：

Statistical Analysis in Practice

3. 授業の目的と概要：

研究の現場で必要となる統計分析手法は、分析の目的とデータの特徴によってさまざまです。この授業の前半では、推測統計学の基本的な概念について解説し、統計的推定および検定の方法について学びます。後半では、さまざまな分析手法をとりあげて、それらの特徴と使い方を習得していきます。どのような分析手法をとりあげるかについては、受講者の関心と必要性を考慮します。統計解析パッケージを使ってデータ分析の実習をおこないます。

4. 学習の到達目標：

さまざまな統計分析手法を理解し、使いこなせるようになる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 推測統計の基礎
- 正規分布の利用
- 統計的検定と検定力
- 順位相関係数
- 積率相関係数
- 相関係数行列
- ここまでの復習と進度確認課題
- 符号検定
- 対応のある平均値の比較
- 多変量解析
- 全体のまとめとレポート内容について相談

6. 成績評価方法：

授業中の課題と宿題（70%）、期末レポート（30%）を合計して評価する。

7. 教科書および参考書：

【教科書】吉田寿夫（1998）『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房。

8. 授業時間外学習：

毎回の課題とレポート作成の準備

9. その他：

1学期開講の比較現代日本論研究演習Ⅰ「統計分析の基礎」を履修済みか、それと同等の知識を習得済みの者を対象とする。